

2019年度 生理研研究会@大阪

「イオンチャネルと生体膜のダイナミズム：

構造生物学の先にあるもの」

プログラム

日程：9月30日（月）～10月1日（火）

場所：大阪大学銀杏会館（吹田キャンパス）

代表：岡村 康司

所内対応者：久保 義弘

1 日目（9 月 3 0 日）

1 2 : 0 0 – 1 3 : 0 0 受付

開会のあいさつ

1 3 : 0 0 – 1 3 : 0 5

一般講演

1 3 : 0 5 – 1 3 : 3 0 下村 拓史 生理学研究所
「Two-pore Na⁺ channel 3 における特徴的な電位依存的活性化メカニズム」
1 3 : 3 0 – 1 3 : 5 5 岩本 真幸 福井大学
「生体膜の特性が支えるイオンチャネル活性」

特別講演 1 座長：岡村康司

1 3 : 5 5 – 1 4 : 3 5 森 泰生 京都大学
「酸化感受性 TRP チャネル研究を通じた脳内酸素感知機構の解明」

1 4 : 3 5 – 1 4 : 5 5 休憩

一般講演

1 4 : 5 5 – 1 5 : 2 0 倉橋 隆 大阪大学
「視細胞ターミナルや嗅細胞線毛に局在する Ca 活性化 Cl⁻ チャネル」
1 5 : 2 0 – 1 5 : 4 5 河合 喬文 大阪大学
「マウス精子に存在する電位依存性ホスファターゼの機能」
1 5 : 4 5 – 1 6 : 1 0 吉田 学 東京大学
「ホヤの受精における CatSper の役割」

1 6 : 1 0 – 1 6 : 3 0 休憩

特別講演 2 座長：藤原祐一郎

1 6 : 3 0 – 1 7 : 1 0 老木 成稔 福井大学
「イオンチャネル—分子研究の再構成膜系からのアプローチ」

生理研共同利用研究の紹介

1 7 : 1 0 – 1 7 : 2 0 久保 義弘 生理学研究所

ポスターセッション

1 7 : 2 0 – 1 8 : 4 5 発表者と演題は別ページ参照

1 8 : 5 0 – 2 0 : 3 0 懇親会（銀杏会館）

2日目（10月1日）

モーニングレクチャー 座長：中條浩一

9：00－9：40

阿部 一啓 名古屋大学

「X線結晶学とクライオ電顕で得られた構造情報の解釈と上手な活用法
～胃プロトンポンプの構造解析を例として～」

一般講演

9：40－10：05

服部 素之 復旦大学

「 Mg^{2+} チャネル MgtE の構造と作動機構」

10：05－10：30

塚本 寿夫 分子科学研究所

「チャネル機能の操作ツールとしての無脊椎動物光受容体」

10：30－10：50

休憩

一般講演

10：50－11：15

柳川 正隆 理化学研究所

「膜受容体の細胞内1分子動態から薬効を読み解く」

11：15－11：40

清中 茂樹 名古屋大学

「グルタミン酸受容体動態解析のための新たなケミカルラベル化法の開発」

11：40－12：40

昼食

ポスターセッション

12：40－13：40

発表者と演題は別ページ参照

一般講演

13：40－14：05

田中 洋光 京都大学

「全反射顕微鏡を用いた AMPA 型グルタミン酸受容体の動態イメージング」

14：05－14：30

掛川 渉 慶応大学

「新規光・化学遺伝学的技術を用いた脳内記憶・学習回路制御」

14：30－14：55

久場 博司 名古屋大学

「聴覚の時間情報処理回路におけるイオンチャネルの発現制御」

閉会のあいさつ

14：55－15：00

* 座長のお願い：特別講演以外の講演者の方々は次の一般講演の座長を行ってください

ポスター発表者：

1. 竹内裕子 大阪大学 「線毛内情報伝達分子の実時間可視化」
2. 桑島佑太郎 理化学研究所 「1 分子イメージングによる TRPV1 チャネル・脂質間相互作用の時空間動態解析」
3. 安達良太 名古屋大学 「トリ蝸牛神経核の周波数域に応じた Kv1.1 の発現は Ca^{2+} 感受性の違いにより制御される」
4. 原雄二 京都大学 「機械受容イオンチャネル PIEZO1 の骨格筋再生における役割」
5. 立山充博 生理学研究所 「代謝型グルタミン酸受容体 mGlu2 によるセロトニン受容体 5-HT_{2a}R シグナリングの制御」
6. 陳以珊 生理学研究所 「非鎮静性抗ヒスタミン薬による GIRK チャネルの活性阻害機構の解明」
7. 平澤輝一 生理学研究所 「Voltage Clamp Fluorometry 法を用いた Two-pore Na^+ channel 3 (TPC3) の膜電位とホスホイノシチドに依存する動的構造変化の解析」
8. 河合喬文 大阪大学 「ホヤ由来電位依存性ナトリウムチャネルの機能解析」
9. 大河内善史 大阪大学 「細胞内膜の膜電位を可視化する：貪食細胞の食胞膜電位計測法の確立」
10. 水谷夏希 大阪大学 「電位センサーのダイナミクスに着目した電位依存性ホスファターゼの動作原理解明」
11. Sharmin Akter 大阪大学 「Microglial proton channel differently functions in brain region and age dependent manner」
12. 柳（石原）圭子 久留米大学 「Kir2.1 チャネル内向き整流性の細胞外 K^+ 濃度依存性のメカニズム」
13. 中川敦史 大阪大学 「Structural studies of PTEN involved in phosphoinositide metabolism」
14. 川鍋陽 香川大学 「PI (4, 5) P_2 制御ツールとしての電位依存性ホスファターゼの改良」
15. 神鳥和代 香川大学 「ナトリウム・グルコース共輸送体の糖選択性に関わる分子構造基盤解析」
16. 堀江里歩 大阪大学 「ミオトニー症候群に伴う Nav1.4 C 末端の EF ハンド様モチーフ変異は、速い不活性化を障害する」
17. 糟谷豪 自治医科大学 「容積感受性陰イオンチャネル LRRC8D の構造解析」
18. 相馬義郎 国際医療福祉大学 「日本人嚢胞線維症患者の CFTR 分子病態生理学」
19. 入江克雅 名古屋大学 「新しい選択性フィルター配列を有する原核生物由来膜電位感受性カルシウムチャネルの同定と機能解析」
20. 山田憲明 大阪大学 「変異型 KACH チャネルは徐脈性不整脈の治療標的となり得る」
21. 森誠之 産業医科大学 「腎糸球体硬化症に関わる TRPC6 変異体におけるフィードバック機構を基盤とした評価」

**** ポスターサイズについて：サイズは高さ 2010mm、横 900mm の A0 です ****

吹田キャンパスへのアクセス：



電車：

○阪急電車千里線

北千里駅（終点）下車 東へ徒歩 約30分

モノレール：

○大阪モノレール

阪大病院前駅下車 徒歩約5分

バス： 阪大医学部病院前下車 徒歩約5分

○阪急バス

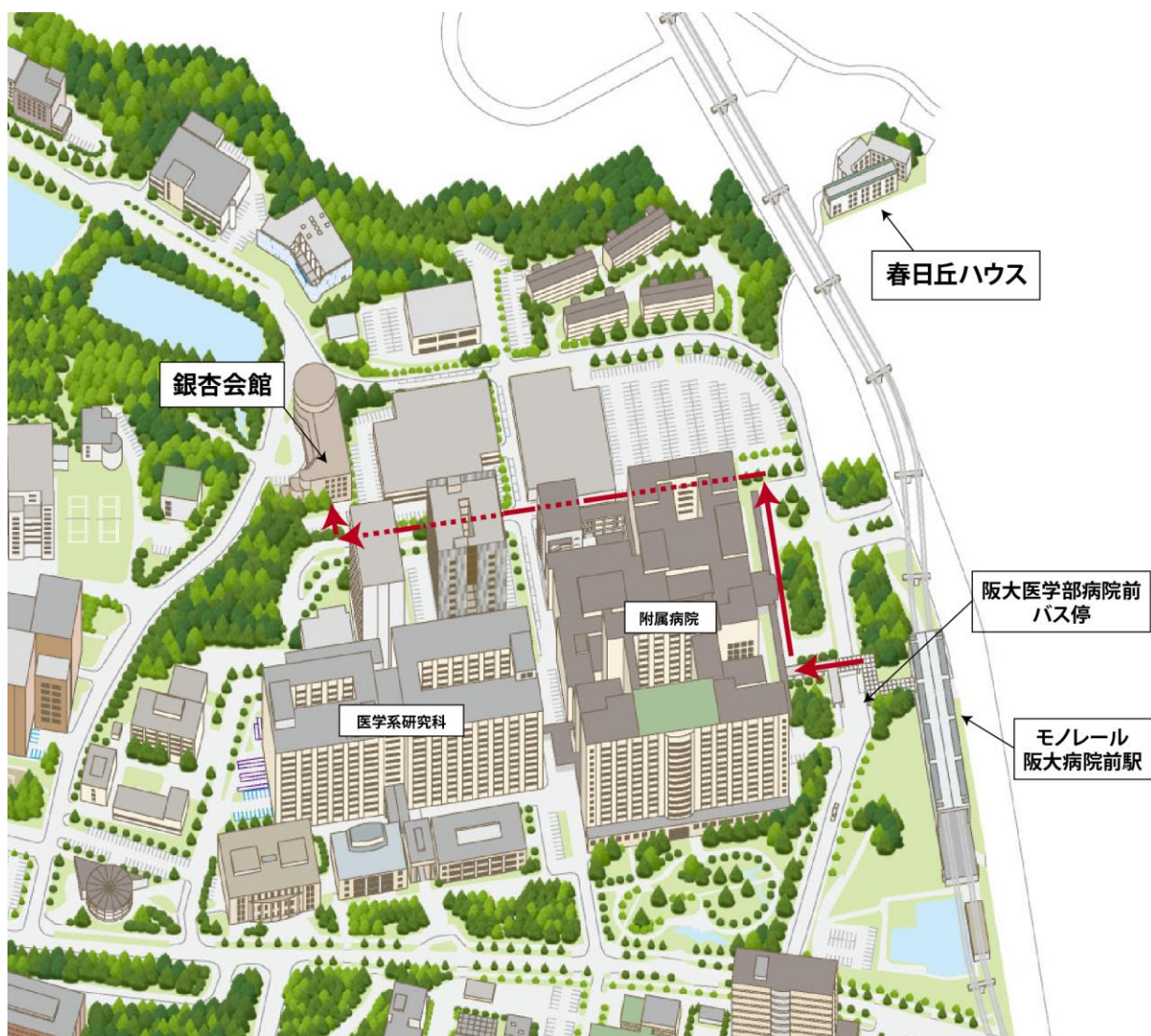
・ 千里中央発「阪大本部前行」、「茨木美穂ヶ丘行」

○近鉄バス

・ 阪急茨木市駅発「阪大本部前行」（JR 茨木駅経由）

銀杏会館および宿泊施設（春日丘ハウス）：

銀杏会館へ行くには、モノレール、バス下車後、赤色の矢印に従って歩いてください。



吹田キャンパス食堂マップ：

